JIMUKYOKU

事務局



Ⅰ　現況

① 公益財団法人日産厚生会のあゆみ

当会は、1948年に結核の予防・診療・研究を目的とする公益法人として設立された。淵源は1940年、日産コンツェルンの総帥・鮎川義介氏により、傘下各社の従業員およびその家族の共同福利厚生施設の一環として開設された健康相談所と結核療養所である。

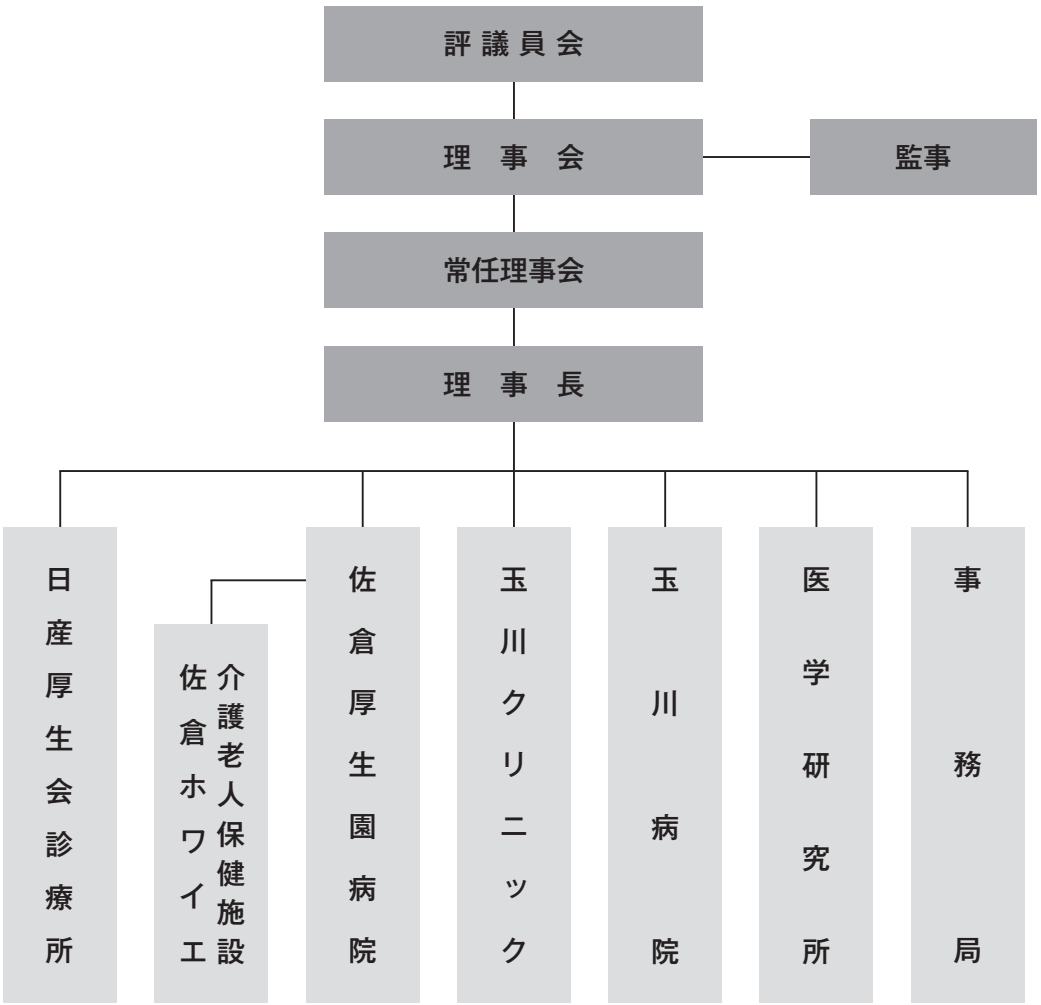
その後、時代の変遷に対応して、生活習慣病、リハビリテーション等の予防・診療・研究ならびに介護保険法にもとづく居宅介護支援事業等も事業目的に加え、事業領域を広げ、現在は東京都と千葉県において、2病院・2診療所・1介護老人保健施設・1訪問看護ステーション・1居宅介護支援事業所を運営している。

2008年の公益法人制度の抜本改革に際し、当会は「国民の健康保持と疾病の予防・治癒に寄与するための医学的研究事業」を公益目的事業に掲げ、2013年12月に内閣総理大臣から「公益財団法人日産厚生会」として公益認定を取得した。

沿革

1940年 9月　(株)日産が日産健康相談所(現日産厚生会診療所)を千代田区内幸町に開設。
1942年 9月　結核療養所として佐倉日産厚生園(現佐倉厚生園病院)を千葉県佐倉町に開設。
1948年 5月　財団法人日産厚生会を設立。日産健康相談所および佐倉厚生園を継承。
1953年 3月　玉川病院を世田谷区瀬田に開設。
1969年11月　玉川クリニックを世田谷区玉川に開設。
1990年12月　介護老人保健施設「佐倉ホワイエ」を佐倉厚生園の隣接地に開設。
1997年 4月　玉川病院に訪問看護ステーションを開設。
1998年 4月　佐倉厚生園に訪問看護ステーションを開設。
2000年 4月　玉川病院および佐倉厚生園に居宅介護支援事業所(「介護相談センターたまがわ」および「厚生園ケアマネジメントセンター」)を開設。
2007年 9月　玉川病院が結核病棟を廃止。
2009年 3月　佐倉厚生園が結核病棟を廃止。
2013年12月　内閣総理大臣より公益財団法人としての認定を受ける。
2014年 1月　日産厚生会診療所を現在地に移転。
2014年 4月　玉川病院内に医学研究所を開設。
　　佐倉厚生園を佐倉厚生園病院に改名。
2021年 3月　玉川病院の居宅介護支援事業所「介護相談センターたまがわ」を廃止。
2024年 6月　玉川病院の訪問看護ステーションを廃止。

② 公益財団法人日産厚生会　組織図



3　評議員および理事・監事名簿

評議員（全員非常勤）

（五十音順）2026年3月31日現在

氏　名	職業等
内　田　幸　雄	ＥＮＥＯＳホールディングス株式会社　名誉顧問
片　岡　　寛	一橋大学　名誉教授
栗　原　裕　基	東京大学　名誉教授
佐　藤　和　人	日本女子大学　名誉教授
田　川　丈　二	日産自動車株式会社　元専務執行役員
松　村　太　郎	まつむら綜合法律事務所　弁護士
宮　崎　純　一	日産化学株式会社　元取締役副社長CFO
吉　田　友　英	東邦大学医学部臨床支援室　教授

理事および監事

2026年3月31日現在

役 職	氏 名	常勤・非常勤	分担業務（職業等）
理事長（兼）会長	和　田　義　明	常　勤	玉川病院　院長
副理事長	長　尾　建　樹	常　勤	佐倉厚生園病院　院長
常任理事	川　村　　徹	常　勤	診療所　所長
同	長　　晃　平	常　勤	玉川クリニック　所長
同	松　原　正　明	常　勤	医学研究所　所長
同	大　門　秀　樹	非常勤	日産化学株式会社　取締役副社長CFO
理　　事	鮎　川　純　太	非常勤	テクノベンチャー株式会社　代表取締役
同	石　坂　和　博	常　勤	玉川病院　副院長
監　　事	宮　坂　敏　尊	非常勤	公益財団法人エイズ予防財団　元理事
同	小　嶋　信　弘	非常勤	損害保険ジャパン株式会社　顧問

Ⅱ　事業活動

❶ 2025年度事業活動概況

2025年度の医療業界は、依然として医療機関の利用者数が新型コロナウイルス感染症拡大以前(2019年度)の水準を大きく下回る状況が続き、加えて長引く円安による物価上昇や医療従事者の確保を目的とした防衛的賃上げが収益を圧迫した結果、多くの医療機関が赤字を計上する深刻な事態となった。

このように研究・調査・情報収集活動を推進する上で十分な環境ではない中、当法人は臨床的調査研究により医療の質の向上を図り、病院・診療所等の運営を通して疾病治療、診療、健診、救急医療等の医療を提供し、住民の健康増進に寄与し公衆衛生の向上等に資するといった事業方針は堅持しつつ、各施設において医学的研究事業の実践とその成果を積み重ね、法人全体の公益認定の取得に向け取り組んできた。

その活動の概況は、次のとおりである。

1. 主要な活動状況

(1)臨床研究等

玉川病院は臨床研究部門(腎疾患総合、気胸・嚢胞性肺疾患、ヘルニア疾患、関節疾患、脳機能再建、前立腺疾患)及び各診療科を主体として研究・調査を推進した。また佐倉厚生園病院では研究活動の更なる充実を図るため、地元の他医療機関と共同で研究発表会を実施した。その他の施設においても、それぞれの施設特性に応じた研究活動を実践した。

医学研究所は、研究者の医学倫理の普及を図りつつ、各施設や各部門における研究活動を促進・支援した。

毎年度研究発表の場として実施している医学フォーラムについては、2026年2月、外部から聴講者を招き、東京コンファレンスセンターにおいて開催し225名の参加を得た。

(2)健康普及啓発活動

玉川病院や佐倉厚生園病院にて、従来、継続開催してきた患者向けの院内各種啓発活動並びに一般市民向け公開行事等は、玉川病院では院内において腎臓病教室や大腸がん講座、院外において薬剤講座を実施した。また佐倉厚生園病院では糖尿病教室、看護の日行事を実施し、多数の参加を得ている。

さらに玉川クリニックや診療所では、産業医としての講演活動等において、生活習慣病予防等をはじめとする、様々な健康普及啓発活動を展開する他、かかりつけ医として親身な指導を実施した。

(3)社会福祉等への貢献

玉川病院では、都・区・保健所等からの要請を受け医師、看護師、PT・OT・ST等の講師派遣や高次脳機能障害支援普及事業である「専門的リハビリテーションの充実事業」を行っているが、当年度は、院内外88名参加の「介護・医療連携の会」をはじめとする講演会・講習会・研修会を実施した。

また佐倉厚生園病院は、隣接の社会福祉施設の協力病院として高齢者医療を支援すると共に、自治体が行う介護保険事業について連携・協力した。

(4)災害医療の充実

玉川病院は、東京都から指定された災害拠点病院であり、その役割を果たすため、平時も訓練を行っているが、当年度は岩手県にて行われた大規模地震時医療活動訓練にDMAT(災害派遣医療チーム)として参加した。さらにDMAT関東ブロック訓練においてDMATの受援訓練を行うと共に、世田谷区における活動として世田谷区合同緊急医療救護所訓練を玉川病院にて開催した。

(5)各種教育・人材育成の推進

①臨床研修医及び特定行為研修看護師の受入れ

玉川病院：基幹型臨床研修病院及び協力型臨床研修病院として7名の臨床研修医指導を行った。また東京科学大学から10名、東邦大学から2名の医学実習生を受け入れた。

さらに特定行為に係る看護師の指定研修機関として、5名の特定看護師育成を行った。

佐倉厚生園病院：地域医療研修及び臨床研修として東邦大学医療センター佐倉病院2名の医師に対し指導を行った。

玉川クリニック及び診療所：地域医療研修として3名の研修医を受け入れた。

②医療系従事者養成機関の学生への実習指導

玉川病院及び佐倉厚生園病院(佐倉ホワイエ、訪問看護ステーションを含む)において、多数の医療・介護関連の大学・専門学校等の学生に対し実習の場を提供し指導を行った。

分野別の実習受入れ状況は次のとおり。

単位：人

	看護	介護	リハビリ	医療事務	その他
玉川地区	129	0	3	0	4
佐倉地区	21	31	16	3	6

③国際交流

玉川病院では世田谷区における外国人患者受入れ医療認証機関の活動の一環として、ドイツの医大から看護インターンシップ学生1名を受け入れた。また佐倉ホワイエでは特定技能制度を利用してインドネシアから合計3名の介護職員を受け入れた。

(6)公益法人制度改革への対応

2025年に施行された改正認定法に基づき、定款改定、法定監査人の選定及び社外監事の役員会陪席を実施し、自主的・自律的ガバナンスの構築並びに事業活動の透明性確保を図った。

2. 主な設備投資およびその他の状況

(1)玉川病院

①電子カルテ端末を入替え、診療業務の効率化を図った。

②心臓超音波装置を更新し、診療精度向上及び患者サービスの向上を図った。

(2)玉川クリニック

①画像配信システムを更新し、診療精度向上及び患者サービスの向上を図った

②超音波画像診断装置を更新し、検診精度の向上及び患者満足度の向上を図った。

(3)佐倉厚生園病院

①新館の補修・改築を実施し、診療環境の向上を図った。

②厨房を補修し、衛生環境の向上及び業務の効率化を図った。

(4)佐倉ホワイエ

①ナースコール連携システムを更新し、業務の効率化及び患者サービスの向上を図った。

(5)診療所

①ネットワーク設備を更新し、就業環境の向上及び業務の効率化を図った。

2 2025年度決算

2025年度は、法人全体として入院・外来等の患者数が前年を下回ったものの、健診の患者数が前年を上回り、医業収益は77百万円の増収となった。これに補助金等の収入が340百万円増額となったこともあり、経常収益は前年比414百万円の増収となった。

一方、経常費用は、賃上げや物価上昇等に伴い、人件費及び診療材料費等が大幅に増加し、全体では前年比440百万円の増加となった。

その結果、差し引きした経常増減額は前年比26百万円減の48百万円となった。

なお、経常外増減等を加減した正味財産増減額では、公益目的事業会計が120百万円の黒字、収益事業等会計が11百万円の黒字となり、会全体では131百万円の黒字となった。

＜正味財産増減計算書＞

（単位：百万円）

	2025年度決算		
	公益目的事業会計	収益事業等会計他	合 計
経常収益	11,773	3,659	15,432
経常費用	11,705	3,679	15,384
経常増減額	**68**	**△ 20**	**48**
経常外増減額	−	−	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	**68**	**△ 20**	**48**
他会計振替額	5	△ 5	−
法人税、住民税及び事業税	−	1	1
当期一般正味財産増減額	**73**	**△ 26**	**47**
当期指定正味財産増減額	47	37	84
正味財産増減額	**120**	**11**	**131**

＜貸借対照表＞

（単位：百万円）

2026年3月31日現在			
科　目	金　額	科　目	金　額
（資産の部）		（負債の部）	
流動資産	**6,700**	流動負債	1,260
現金・預金	4,256	固定負債	745
医業未収金	2,340	**負債合計**	**2,005**
その他	104	（財産の部）	
固定資産	**6,093**	一般正味財産	10,384
基本財産	300	（当期増加額）	(47)
特定資産	2,261	指定正味財産	404
有形固定資産	3,158	（当期増加額）	(84)
その他	374	**正味財産合計**	**10,788**
合　計	**12,793**	**合　計**	**12,793**

3 受取寄付金明細

2025年度は、次の方から寄付金をいただきました。

氏名等	寄付金額(円)	受領年月日	指定の有無	使途
個人(延べ5名)	3,430,000	2025. 8.14 ～2025.12.22	なし	
個人(1名)	75,000,000	2025. 7.30 ～2026. 3. 2	あり	玉川病院の運営費に充当
個人(1名)	500,000	2025.12.10	あり	佐倉厚生園病院の運営費に充当
募金箱(玉川病院内)	97,943	2025. 6.30 ～2026. 3.31	なし	

Ⅲ　福利厚生

当会では、福利厚生施策の一環として、東急ハーヴェストクラブの会員権を取得し、職員およびその家族の健康増進や余暇生活の充実を図っている。

東急ハーヴェストクラブは、全国のリゾートホテル（準相互利用を含む）施設やゴルフ場を低価格で利用可能とする会員制クラブである。うち、当会が会員権を取得しているホームグラウンドは、那須・勝浦・箱根甲子園・熱海伊豆山・伊東・旧軽井沢・旧軽井沢アネックスの計7施設である。

このホームグラウンド施設以外の施設を「相互利用施設」といい、会員権を持たないこれらの施設でも、部屋が空いていれば宿泊利用が可能である。

2025年度東急ハーヴェストクラブ利用状況

ホームグラウンド							
那須	勝浦	箱根甲子園	熱海伊豆山	伊東	旧軽井沢	旧軽井沢アネックス	小計
20	10	15	21	10	17	4	97
相互施設							
那須Retreat	鬼怒川	天城高原	浜名湖	静波海岸	山中湖マウント富士	斑尾	軽井沢	小計
1	10	3	4	3	2	0	3	65
蓼科	蓼科アネックス	蓼科リゾート	南紀田辺	京都鷹峯	有馬六彩	VIALA 鬼怒川渓翠	VIALA 箱根翡翠	
4	0	1	3	4	2	7	2	
VIALA 箱根湖悠	VIALA annex 熱海伊豆山	VIALA annex 軽井沢	VIALA 軽井沢 Retreat creek	VIALA 軽井沢 Retreat garden	VIALA annex 京都鷹峯	VIALA annex 有馬六彩	RESERVE 箱根明神平	
3	1	3	4	0	3	0	2	
RESERVE 飛騨高山	RESERVE 京都東山	都リゾート 志摩ベイサイドテラス	プリンス バケーションクラブ ヴィラ軽井沢浅間	プリンス バケーションクラブ 軽井沢浅間	プリンス バケーションクラブ 三養荘			
0	0	0	0	0	0			
							合計	162